

Tokyo Contemporary Art Award 2024-2026 受賞者決定のお知らせ

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団は、世界に発信すべき中堅アーティストの更なる飛躍を促すため、現代美術の賞「Tokyo Contemporary Art Award」を実施しています。この度、第5回受賞者が決定しましたのでお知らせいたします。

1 Tokyo Contemporary Art Award 2024-2026 受賞者（2名）

梅田 哲也（うめだ てつや）



撮影：Tanaka Chihiro

呉 夏枝（おはぢ）



撮影：木奥恵三

※敬称略／五十音順

2 授賞式および受賞記念シンポジウム

開催日： 令和6（2024）年2月17日（土曜日）
時間： [授賞式] 14:00 から 14:30 まで（開場：13:30）
[受賞記念シンポジウム] 14:40 から 16:10 まで
会場： 東京都現代美術館 地下2階講堂（江東区三好4-1-1）
その他： 入場無料・要事前申込・先着順。日英同時通訳あり。

[受賞記念シンポジウム]

選考委員による選考の総評や、「同時代性」、「社会性」など選考会で議論になったポイントについて振り返ります。また、受賞者2名が自身の作品や制作について話します。

<お申込み方法>

1月25日（木曜日）から2月15日（木曜日）までの間、
ウェブサイトよりお申込みください。

ウェブサイト：<https://www.tokyocontemporaryartaward.jp/>



ウェブサイト

（その他の詳細は別紙またはウェブサイトをご覧ください。）

本件は、「『未来の東京』戦略」を推進する事業です。

戦略15 文化・エンターテインメント都市戦略「芸術文化の担い手サポートプロジェクト」

問い合わせ先

生活文化スポーツ局文化振興部文化事業課

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館

電話 03-5000-7235

トーキョーアーツアンドスペース事業課

電話 03-5245-1142

Tokyo Contemporary Art Award 2024-2026

受賞者プロフィール

・ 梅田哲也 | UMEDA Tetsuya

1980年熊本県生まれ、大阪府在住。

現地にあるモノや日常的な素材と、物理現象としての動力を活用したインスタレーションを制作する一方で、パフォーマンスでは、普段行き慣れない場所へ観客を招待するツアー作品や、劇場の機能にフォーカスした舞台作品、中心点を持たない合唱のプロジェクトなどを発表。先鋭的な音響のアーティストとしても知られる。

近年の主な展覧会や公演に、個展「wait this is my favorite part 待ってここ好きなとこなんだ」(ワタリウム美術館、東京、2023)、「奥能登国際芸術祭 2023」(珠洲、石川)、個展「梅田哲也 イン 別府『O滞』」(別府各所、大分、2020)、個展「うたの起源」(福岡市美術館、2019)、「東海岸大地芸術節」(台東、台湾、2018)、また、パフォーマンスとして「Kunstenfestivaldesarts 2017『Composite: Variations / Circle』」(ブリュッセル)など。



「wait this is my favorite part 待ってここ好きなとこなんだ」展示風景 (ワタリウム美術館、東京、2023) 撮影：後藤秀二



《O階》2020 「さいたま国際芸術祭2020」展示風景 (旧大宮区役所) 撮影：丸尾隆一



「うたの起源」展示風景 (福岡市美術館、2019) 撮影：山中慎太郎 (Qsyum!)



《わからないものたち》《りんご》2017 「札幌国際芸術祭2017」展示風景 (金市館ビル/りんご) 撮影：小牧寿里

・ 吳夏枝 | OH Haji

1976年大阪府生まれ、オーストラリア在住。

2012年京都市立芸術大学美術研究科博士後期課程研究領域染織修了

主に、織、染、ほどくなど、繊維素材にまつわる技法を用い、写真、テキスト、音声などを併用したインスタレーション作品を制作。在日韓国人三世の出自を背景に、言葉にされなかった個人の記憶「沈黙の記憶」をめぐる制作や、ワークショップを通しての対話や経験をもとに、記憶の継承の可能性を探求している。現在は、日本とオーストラリアを拠点に活動している。

近年の主な展覧会に、「KANTEN 観展：The Limits of History」(Apexart、ニューヨーク、2023)、「六本木クロッシング 2022 展：往来オーライ！」(森美術館、東京)、「展示と対話のプログラムアートセンターをひらく 第II期」(水戸芸術館現代美術ギャラリー、2019)、個展「手にたくす、糸へたくす」(小山市車屋美術館、栃木、2019)、「交わるいと『あいだ』をひらく術として」(広島市現代美術館、2017)、個展「一仮想の島— grandmother island」(MATSUO MEGUMI + VOICE GALLERY pfs/w、京都、2017)など。



《海鳥たちの庭》 2022 「六本木クロッシング2022展：往来オーライ！」 展示風景 (森美術館、東京)
撮影：木奥恵三 画像提供：森美術館



《彼女の部屋にとどけられたもの》 2019
撮影：根本譲 画像提供：水戸芸術館現代美術センター



《海図》 2017-2019 撮影：木暮伸也
画像提供：小山市車屋美術館



《記憶をまとう》 2014 撮影：山本糾

受賞理由

・梅田哲也

発表する場所の地政学的、環境的特徴に対する洞察が、自身の表現言語で翻訳され、作品として昇華されている点が高く評価されました。歴史やシステムといった重いテーマを扱いつつ、人間の感覚への信頼にもとづいた表現は詩的で軽やかで、空間の物理的な制約をポジティブに解釈、転用する手腕にも優れています。鑑賞者の体験を重視する作品からは、作家の倫理的な態度を見ることができ、鑑賞者が自発的に場の探索を始められる丁寧かつ親密な仕掛けが特徴的です。視覚文化に対する明確な理解にもとづいた分野を超えたストーリーテリングによってそれらを統合する表現力は突出したものでした。

・呉夏枝

大きな歴史およびそこで掬いきれない個人の小さな物語の両方への等しい眼差しが特徴で、染、織といったテキスタイルの形をとる制作それ自体も地政学、女性史、移民・移住の歴史を表象するものとなっています。物質文化としてのテキスタイルの技法と素材を丹念に研究し、かつ高い技術を備え、それらを表現する題材をコンセプチュアルに用いている点が高く評価されました。また、現在作家が制作している作品群は、個人の生に焦点を当てるのみならず、階級と労働に関する調査を交差させたアプローチであり、歴史だけでなく、ジェンダーや移民、自然環境の問題とも接続可能である潜在性が評価されました。

・選考委員長による総評

写真や映像といったデジタル・メディアを用いる作家が多かったですが、メディウムの選択や使い方、展示方法には新鮮さや驚きを感じるようなものは残念ながら少なかったです。

自身の国籍や属性、ジェンダー・アイデンティティが制作当初の動機でありながら、そこから他の個人や集団の歴史、経験へと接続していこうとする意思が強く反映された作品が多く、作家が制作の過程で関わる人々と時間をかけて丁寧に信頼関係を築いていることに感心しました。

マイノリティや移民の問題は、彼らが存在する場所の歴史や地政学に根付く問題ですが、その一方で、世界のあらゆるところにある問題であるとも言えます。マイノリティの問題を日本固有の問題として設定せずに語る方法を探ることで、大局的な問題が顕在化し、より多くの人々と作品を通して問題を共有する可能性が開かれるのではないのでしょうか。

Tokyo Contemporary Art Award について

本賞は、2018年に東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペースによって創設された、海外での展開も含め、更なる飛躍とポテンシャルが期待できる国内の中堅アーティストを対象とした新たな現代美術の賞です。アーティストのキャリアにとって最適な時期に最善の支援内容を提供する必要性を重視し、受賞者の選考は、選考委員によるアーティストのリサーチやスタジオ訪問により、制作の背景や作品表現、キャリアステージへの理解を深めた上で行われます。受賞者に対しては、海外での活動支援のほか、東京都現代美術館での展覧会およびモノグラフ（日英）の作成など、複数年に渡る継続的な支援を行います。

【これまでの受賞者】

- 第1回 TCAA 2019-2021 風間サチコ / 下道基行
 第2回 TCAA 2020-2022 藤井光 / 山城知佳子
 第3回 TCAA 2021-2023 志賀理江子 / 竹内公太
 第4回 TCAA 2022-2024 サエボーグ / 津田道子

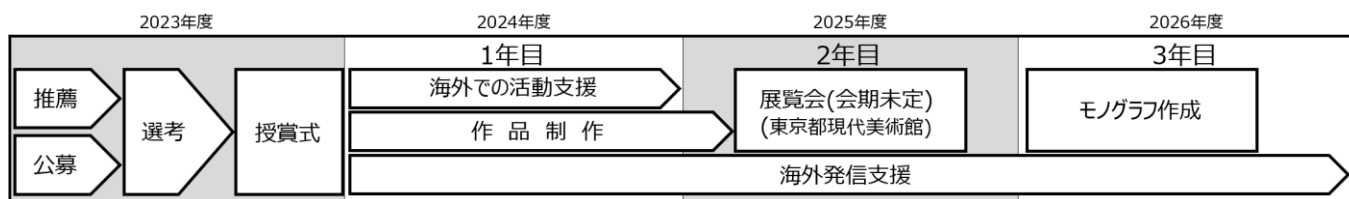
Tokyo Contemporary Art Award 2024-2026 について

2023年6月に公募を行い、選考委員に公募者を含む候補アーティストの推薦を依頼、議論によりノミネートアーティストを選出。その後、各アーティストの事前調査、オンラインを活用したスタジオ訪問や面接など、対話による選考を経て、受賞者を決定しました。

【支援内容】

- 賞金 300 万円
- 海外での活動支援 / 上限 200 万円（旅費、滞在費、調査・制作費等）
- 展覧会実施（東京都現代美術館での展示 / 2025 年度内予定）
- モノグラフ（作品集）の作成・海外発信支援

【スケジュール】



【選考委員】 ※肩書は2023年選考会実施時のもの

高橋瑞木	CHAT (Centre for Heritage, Arts and Textile) 館長兼チーフキュレーター
野村しのぶ	東京オペラシティアートギャラリー シニア・キュレーター
ソフィア・ヘルナンデス・チョン・クイ	クンストインスティテュート・メリー ディレクター
レズリー・マ	メトロポリタン美術館 ミン・チュウ・シュウ&ダニエル・シュー アジア・アート部門アソシエイト・キュレーター
鷺田めるろ	十和田市現代美術館 館長 / 東京藝術大学大学院 准教授
近藤由紀	トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター (公益財団法人東京都歴史文化財団東京都現代美術館トーキョーアーツアンドスペース事業課長)

【選考会運営事務局】

特定非営利活動法人アーツイニシアティブトウキョウ [AIT/エイト]